

とうきょう すくわくプログラム活動報告書①

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年7月18日(金)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

水の色の変化を楽しむ。

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

水遊びを楽しむ中で「かんぱい」「ジュースです」とジュースに見立てて遊ぶ姿があったため、色を付けたり色を混ぜたりして遊べるようにする。

2.活動スケジュール

水を入れたウォータータンクに食紅を入れ、水の色が変化の様子を見せる。コップを用意して移し変えたり、混ぜたりする。

3・環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

テーブル、ウォータータンク、食紅(赤・青・黄・緑)、プラスチックカップ、プリンカップ、ゼリーカップ、スプーン

4.探究活動の実践

<活動内容>

タンクから自分で好きな色の水を出し、コップに移し替え、ジュース屋さんごっこをしていた。色水を混ぜ、色の変化を楽しんでいた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・赤の色水を見て「いちごジュース」、黄色の色水を見て「ドクターイエロー」「ピカチュウジュース」と、色から好きな物を連想して話していた。	
・色水に水を足して「ピンクになった」、青と黄色を混ぜて「みどりになった」、赤と黄色を混ぜて「これ、オレンジジュースみたい」と色水同士を混ぜることを楽しんでいました。	
・混ぜた色水をコップに移し替えて乾杯したり、並べて「いらっやいませ」とお店屋さんになりきったりしていた。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

子ども自らが色を混ぜて色の変化に気づいたり、偶然緑やオレンジができて驚いたりしながら、色水遊びを楽しんでいた。色水を混ぜて違う色水ができる様子に興味を示していたので、次回は絵の具を使ってさらに色の変化を楽しみながら、関心を深めていく。また、手指を使って絵の具を混ぜたり伸ばしたりしながら表現する面白さを味わえるようにする。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書②

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年8月29日(金)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

絵の具の色の变化を楽しむ。

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

前回、色水を混ぜて色の变化に気付いたり、色水を混ぜて違う色ができることに驚いたりしていたため、絵の具を使って色の变化を楽しめるようにする。

2.活動スケジュール

テーブルの上に絵の具をのせ、手指を使ってのぼしたり混ぜたりする。また、紙や体にも塗って感触を味わう。

3.環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

テーブル、絵の具(青・ピンク・黄)、水、画用紙

4.探究活動の実践

<活動内容>

保育士がテーブルの上に3色の絵の具をのせると、手のひらを使ってのぼしたり他の色と混ぜたりして、色の变化を楽しんでいた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・色が混ざった部分を見て、「ここが緑になった」「なんか色が変わってきた」と色の变化に気づく。	
・指先や手のひらで絵の具をのぼし、「ぬるぬるする」「つめたい」と感触を確かめていた。	
・手や足だけでなく、「ほっぺにもつけちゃおう」と、体や顔にまで塗って楽しんでた。	
・画用紙に手形をつけて遊ぶ子どもいた。	
・「これ(色)でアイス作りしたい」と言う子がおり、氷作りをした。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

「ピンクと黄色でオレンジになるよ」「青と黄色で緑になった」と混色による色の变化を発見し、繰り返し試しながら楽しんでた。また、自分で見つけた色や形を保育者や友だちに嬉しそうに知らせ、共有しようとしていた。
 「(こんな色の)アイス作りしたい」という声があり、最後に混ぜた絵の具で色水を作り、製氷皿に入れて氷を作る。後日、作った氷を取り出してみると、色のついた氷ができおり、「この前絵の具で作ったね」「アイスになった」とアイスに見立てて遊ぶこともできたのでよかった。

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年9月25日(木)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

オリジナルジュースを作る①

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

水遊び中、食紅や入浴剤を使った色水でジュース屋さんごっこをしていたので、ボトルに入れ、一人ひとりのオリジナルジュースを作る。

2.活動スケジュール

3原色絵の具を使って色水を作り、作った色水を子どもが自分で調合し色の変化を探究する。

3・環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

絵の具(赤・青・黄・白)、クリアカップ、スプーン、割り箸、ミニボトル

4.探究活動の実践

<活動内容>

それぞれの色水を混ぜる様子を見せた後に、自分の好きな色を選んで混ぜてみる。混ぜた色水をミニボトルに移し替え、ジュースに見立てた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・保育者が色水を作る様子を興味津々で見ながら、「赤と黄色を混ぜたい」「緑にしたい」「こっち(違う色)も混ぜてみる」と話し、「オレンジになった」「あ、紫だ」と、色水の変化を楽しんでいた。	
・無い色を作ろうと考える姿があり、「ピンクにならないね」と問いかけると、「(水を)いっぱい混ぜてみる」「白をいれてみたら？」とアイデアが出た。	
・色を確認しながら慎重に混ぜていく子と、次々に違う色を混ぜていく子がいた。また、自分の思い浮かべる色に近づけようとする子もいた。	
・自分で混ぜた色水を見て、「ぶどうジュース」「にんじんジュース」「ピーマンジュース」と話していた。	
・できあがたミニボトルを、窓から差し込む陽の光にあて、「キラキラしてる」と話していた。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

全員が興味や関心を持って取り組むことが出来た。最初に手本を見せたことで、イメージを持っていろいろな色を混ぜたり、自分の思い浮かべる色に近づけようとしていたりすることができた。できあがったジュースに自分で名前をつけたり、どんな味がするかを想像したりすることを楽しんでいたため、普段の遊びの中でも玩具の1つとして使っていきたい。

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年10月10日(金)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

オリジナルジュースを作る②

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

前回作ったジュースを玩具の1つとして遊んでいた所、「ジュース作るの楽しかった」「またやりたい」という会話が見られたため、素材を変えてジュース作りをする。

2.活動スケジュール

水にクレープ紙を入れて混ぜることで、水の色が変わっていく様子を見せる。絵の具で作った色水との違いを楽しむ。

3・環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

テーブル、クレープ紙(赤、黄、オレンジ、ピンク、緑、紫、白)、水、割り箸、プラスチックカップ、スプーン、ミニペットボトル

4.探究活動の実践

<活動内容>

水にクレープ紙を入れて混ぜた際に色が滲み出る様子を見せる。好きな色のクレープ紙を選んで色水を作り、混ぜてジュースにする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・絵の具ではなく、紙を水に入ると色が出てくると「なんで？」と驚き、興味を持つ。 ・「紙の色が白くなってる」と、色水ができると紙の色が薄くなることに気づく。 ・ピンクの紙からは色がなかなか出ないことに対して、「もっと(紙を)潰してみたらいいんじゃない？」と提案する子がいた。 ・「カルピス作りたい」と期待していたが、白い紙からは色が出なかった。それまでの色のよう、紙を増やしたり、思い切り潰したりしても出ず、「なんでできないんだろう」と残念がっていた。 ・作った色水のコップが増えくると「いらしゃいませ」「〇〇ちゃんのジュースいいね」「おいそう」とジュース屋さんに見立てていた。 ・ボトルに移し替えると、前回のことを思い出したのか、窓辺に行つて光にかざしていた。	    

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・絵の具だけでなく、クレープ紙も取り入れたことで、子ども達が自ら素材に働きかけ、紙が溶ける・色が出てくるといった変化を観察し、実験感を十分に味わうことができた。混ぜることに夢中になり多くの色を混ぜることで、茶色や黒などの濁った色になる子もいた。大人からすると一見失敗とも思える色も、「コーラ」「麦茶」「コーヒー」といった、自分の生活と結びつける自由な発想が出ており驚かされた。

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年11月～(継続)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

日々の遊びの中で色を感じる。

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

日々の保育スペースの中に色を意識できるような玩具を取り入れることで、ジュース作りで高まった色への興味をさらに高めていく。

2.活動スケジュール

光テーブルと透明素材のピタゴラスを設置した。また、前回。前々回で作成した色水のジュースをおままごとで使いたいという子どもの声を受け、コーナーに設置した。

3.環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

光テーブルとピタゴラスのコーナーを新たに導入する。手作りジュースをままごとコーナーに常設する。

4.探究活動の実践

<活動内容>

透明なマグネットブロックを光テーブルの上で並べたり、立体的に組み立てたりする。ブロックを重ねることで色が変わるという視覚的变化に気がつく。ジュースをおままごとの中に取り入れ、ジュース屋さん・レストランごっこといったごっこ遊びへ発展していった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・「次は赤」「こっちは黄色」と色を選んで並べたり、積み重ねたりしていた。 ・立体的に組み立てたピタゴラス越しに覗き込み、「〇〇ちゃんが赤くなってる」「見える？」と透け感を楽しんでいた。 ・自分たちで作った色水のジュースを使って遊ぶ。「オレンジジュースください」「麦茶いりますか？」とお店屋さんやレストランごっこへと遊びが発展していった。 ・フラフープを並べ、「水色、緑、ピンク」と色の名前を言いながら跳んでいた。 ・「しましまにする」とブロックの色を1つずつ変えたり、赤のみを集めて「消防車」、黄色を繋げて「銀座線」等と、普段見ている乗り物を再現していた。 ・「緑で作りたい」と友だちからブロックを分けてもらい、同じ色を集めて組み立てることもあった。	       

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

単発の活動で終わらせず、子どもたちがいつでも色に触れられる環境を整えたことで、色を重ねる・透かす体験へと発展させていた。保育士側から特別な働きかけをしなくても、子どもたち同士で色についての会話が增え、混色体験や色にオリジナルの名前をつける楽しさを味わっていた。光という新たな要素が合わさることで、子どもたちの発見の喜びがさらに増していったと感じた。

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和7年12月15日(月)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

クリスマスってどんな色？

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

色を混ぜることへの興味が深まっているので、イメージした色を自分なりに作ってみる。クリスマスが近づき、イルミネーションやクリスマスツリーの話題が増えてきたことからテーマに設ける。

2.活動スケジュール

「クリスマス」という言葉から子どもたちが連想した色の絵の具を用意し、画用紙へ自由に描いた。

3・環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

ブルーシート、画用紙(白)、絵の具(赤、青、緑、白、茶色、黄色)、筆

4.探究活動の実践

<活動内容>

クリスマスをイメージした時に思い浮かんだ色を使い、自由に画用紙に色を塗る。色を混ぜ合わせたり、丸や三角などの形を描こうとしてみたりする子がいた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・「クリスマスって何色だと思う？」という問いに、「ツリーが緑」「星が黄色」「茶色のトナカイ」「サンタさんは赤」「雪の白」など、1つ出ると次々に出ていた。 ・最初は1色で塗っていた子も、「〇色も使いたい」と色を混ぜ始めていた。 ・「ここはキラキラしてる所」など、イルミネーションをイメージして塗っている子もいた。 ・色が混ざり合っていくと「にじみたい」「虹ができた」と虹を連想する子が多かった。 ・「おしまいにする」と満足して終える子に、どんなクリスマスにしたのかを尋ねると、「バイキンマンクリスマス」「クリスマスツリー」「恐竜のクリスマス」「にじのクリスマス」など、自分の絵にタイトルをつけていた。 ・「もっと大きな紙にも描いてみたい」「またやりたい」といった声が上がった。	   

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

慎重に筆で塗り進める子もいれば、手のひらに絵の具を塗ってスタンプするなど、ダイナミックな表現方法も見られ、「クリスマス」という共通の表現方法の中でも個性が現れていた。完成した絵を壁に貼ると、「めろんさんのツリーができた」「おっきいのにになった」と喜びと共に、「もっと大きい紙でやりたい」という声が出たので、次回は個人ではなく友達と一緒に楽しめる形にしていきたい。

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和8年2月20日(金)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

大きな段ボールにお絵描きをしてみよう

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

前回、画用紙にお絵描きをした際に「もっと大きい所にお絵描きをしたい」という意見があった。光テーブルが入っていたダンボールが不要になった為、ダンボールに様々な道具を使って絵の具遊びを楽しめるようにした。

2.活動スケジュール

室内にブルーシートを敷き、上に乗せたダンボールの表面にお絵描きをする。筆だけでなく、ローラーやスタンプといった道具も自由に使えるようにした。

3.環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

ブルーシート、ダンボール、絵の具、泥んこ絵の具、筆、ローラー、スタンプ、タンポ

4.探究活動の実践

<活動内容>

ブルーシート上に乗せたダンボールに、好きな道具を使い、好きな色でお絵描きをした。最初は使い慣れた筆を使用していたが、徐々に他の道具も使っていた。手のひらに絵の具をつけて、絵の具を塗り広げてみたり。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・ダンボールを置くと「紙じゃないの?」「ここに塗っていいの?」と期待に目を輝かせていた。 ・自分の好きな色をずっと塗り続ける子や、色を混ぜて楽しむ子がいた。 ・友だちの色と混ぜても嫌がらず、「新しい色になった」と喜んでいった。 ・保育士が道具を使う姿や友だちの姿を見て、次々に道具を試していた。 ・初めて使う泥んこ絵の具は、「ねちょねちょする」「どろんこみたい」と感触を楽しみながら絵の具を伸ばして塗っていた。 ・手のひらだけでなく、手についた絵の具を足に塗る子もいた。 ・色数が増えてくると、今回も「にじみたい」という表現が出てきた。	      

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

複数人で1つのダンボールに描く中で、自分の描いた場所に誰かの色が重なっても嫌がらずに、「色が変わった」と一緒に喜ぶ場面が見られた。保育士が「ここぬって」と指定せず、道具を使って塗る姿を見て自発的に模倣し始めた。机上ではなく、床に置いたダンボールをキャンバスにしたことで、子どもたちの動きを制限することなく、肩や腰を使い、のびのびと描くことができていた。ダイナミックな活動を通して、子どもたちの描きたい・試したいという表現の欲求を満たすことができたと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書⑧

所在地	台東区
施設名	東上野乳児保育園
活動日	令和8年2月26日(木)～3月9日(月)
クラス名(年齢)	めろん組(2歳児)
年間テーマ	色

1.活動テーマ

<テーマ>

虹をイメージしてみんなで1つの作品を作ってみよう

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

今年度後半の活動で、色が混ざり合う様子を「虹みたい」「虹ができた」と表現していたことから、卒園記念の共同制作で虹を作ることにした。

2.活動スケジュール

虹からイメージする色の絵の具を選び、パレット代わりの皿に乗せる。それぞれの画用紙に自由に塗っていく。似ている色の画用紙を貼り合わせ、クラスで1つの虹にする。

3.環境をデザインする(活動のため準備した素材や道具、環境設定)

ブルーシート、テーブル、プラスチック皿、筆、絵の具、のり、お花紙

4.探究活動の実践

<活動内容>

「虹ってどんな色?」「何色?」という保育士の問いかけから考え、自分のイメージした色を紙皿に出すと、そのまま画用紙に塗ったり、皿の中で数色を混ぜ合わせたりしてから塗っていた。保育士が描いた虹の線を見て、「ここは青がいい」「こっちは黄色」と自分たちで色の場所を決めて貼っていた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
・「虹ってどんな色」「何色の虹がいい?」という問いかけに、自分のイメージする絵の具を手にする。 ・好きな1色を選ぶ子もいれば、「赤と青」「これとこれを混ぜたい」と数色選ぶ子がいた。 ・今までの経験から「混ぜないで」「これだけでいい」と、混ぜない選択をする子もいる。 ・「ここは赤チームね」と貼る場所を決めて貼り始める。 ・「こっちは〇色だよ」「〇色がはみ出てる」「隙間がある」と色を意識しながら貼っていた。 ・「このピンクとこっちのピンクなんか違うよ」と混ざり方による色の違いに気づく。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・虹をイメージしながら混色を楽しむ子が多い中、今までの経験からあえて混ぜないことを選択する子がいたことに驚かされた。個々のイメージや好きな色からなる虹が、色ごとに貼り合わせていくことで1つの大きな虹になっていくという共同体験をし、成長や個性を振り返る機会となった。子ども達も「ここは〇〇君が塗ったところ」「〇〇君と〇〇ちゃんの赤、ちょっと違うね」と、視覚的にも楽しい作品ができあがり、一年間の集大成となった。